

03.10.15

まちづくりと政策イノベーション 発表

人口還流現象の実態とその要因に関する研究 - 兵庫県淡路島を事例に

政策メディア研究科 修士課程2年

片桐 暁史 / akifumi@sfc.keio.ac.jp

本日のテーマ

研究計画
おさらい

研究の流れ
現在の位置づけ

アンケート
調査票のチェック



趣旨文 1枚
調査票 16ページ

研究の目的

問題意識

中山間地域・・・国土面積の7割
農業生産の4割
若年層流出による過疎・高齢化

人口還流の正確な実態把握は
わが国の地方圏の将来に重要課題

研究の意義

既往研究・・・国調、住基
(×) Uターンの正確な実数把握
同窓会名簿分析により
市町村単位での帰還先の特定
淡路島・・・
人口移動を左右する様々な要素

研究の目的

兵庫県淡路島を事例に、
人口還流の実態と要因を解明

どのような人が、
どのような条件の下で帰還し、
どのような役割を果たしているか



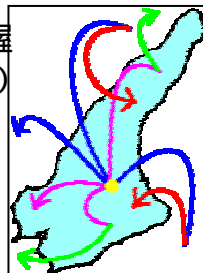
研究の流れ

(0) 淡路地域の概況整理

国勢調査、住民基本台帳、事業所統計
現地巡検、役場ヒアリング、既往関連研究サーベイ

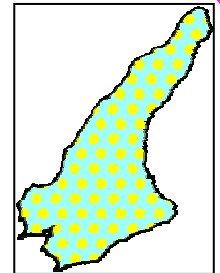
Uターン動向把握 (同窓会名簿整理)

- ・マクロな把握
- ・コーホート比較
- ・男女比較
- ・地域別の整理



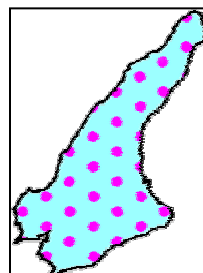
アンケート 調査

- ・家族関係、
親の職種、持家
- ・理想と現実の
乖離と改善策



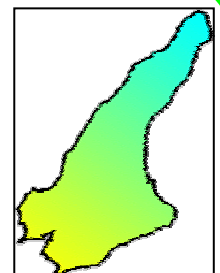
ヒアリング 調査

- ・ミクロな把握
- ・地域性
- ・役場/Uターン支援
センターの現状



考察 地域情報構築

- ・あるべき条件と
果たせる可能性
- ・GISを用いた
地域情報の構築



アンケート調査概要

アンケート調査の目的 「淡路島への帰還実態」

どんな人が、いつ、なぜ帰還しているの？
帰還している人、帰還していない人の違いは？
それは時代とともにどのように変化してきているの？

アンケート調査の対象・比較法

16期生（1945年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

16期生（1945年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

コーホート間
の比較

26期生（1955年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

26期生（1955年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

コーホート間
の比較

41期生（1970年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

帰還・非帰還
の比較

41期生（1970年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

「共通点」と「新規性」

共通点

荒井・江崎・川口による研究

長野・宮崎県出身男性、3世代に対するアンケート調査

家族構成・学歴・居住経歴・移住理由・職歴など

Uターンの時期、出身市町村志向、Uターン傾向の強まりを確認

Uターンの誘引・阻害要因を解明

本研究の位置づけ より一般性を持たせるための事例的研究

新規性・オリジナリティ

- ・ 男性だけでなく女性の移動実態
- ・ Uターン実行後の再流出の実態・要因
- ・ 地方圏出身者の高齢期における移動・居住
- ・ Uターン後の、地域における役割
- ・ ライフコースの中のUターン
- ・ 淡路島の進学高校卒業者という特殊性

本研究の位置づけ

これら新規性を
導き出せる
アンケート調査を通し
新しい知見を示す

アンケート対象者の類型

男女による分類

男性 女性
収入は家計全体に注目

コーホートによる分類

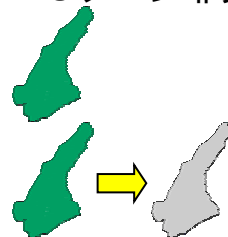
26期生(1955生) 現在48歳
このコーホートを中心に分析
きょうだいが少ない頃
「Uターンしないと」?

16期生(1945生) 現在58歳
定年後・高齢期の居留意向
きょうだいの多い頃
「Uターンしなくても」?

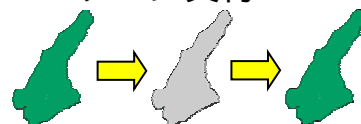
41期生(1970生) 現在33歳
若年層の移動実態・意向

居住パターンによる類型

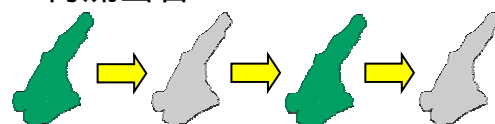
Uターン非実行者



Uターン実行



再流出者



アンケートの構造

>> 全員「基本属性」

基本属性(年齢・性別・きょうだい数・学歴・家族構成・職業など)
配偶者の出身地、居住経歴(高校在学時～現在、3類型化)

>> [U]非実行者

[U]検討の
有無・時期・程度
検討時の家族
[U]断念の理由
[U]の誘引・**阻害**
今後の意向

>> [U]実行者

[U]の時期・家族
[U]の**誘引**・阻害
[U]前後の変化
(職・収入)
地域活動
今後の意向

>> 再流出者

[U]の時期・家族
[U]の誘引・阻害
[U]前後の変化
再流出の時期・家族
再流出の理由・変化
今後の意向

>> 全員「経験を通して」

将来の居住地・同居者の意向
淡路地域に対する満足・不満、[U]促進策に必要な手段
[U]に対する自由意見、ヒアリングの可否、結果概要の要否

今後の予定

淡路地域の概況整理
済み

Uターン動向把握
済み

アンケート作成・実施
2003.10

ヒアリング調査
2003.08～11

考察
2003.11～2004.01

公式日程

10月22日
中間発表練習

10月25日
中間発表

1月14日
修士論文提出

2月4～5日
最終発表